

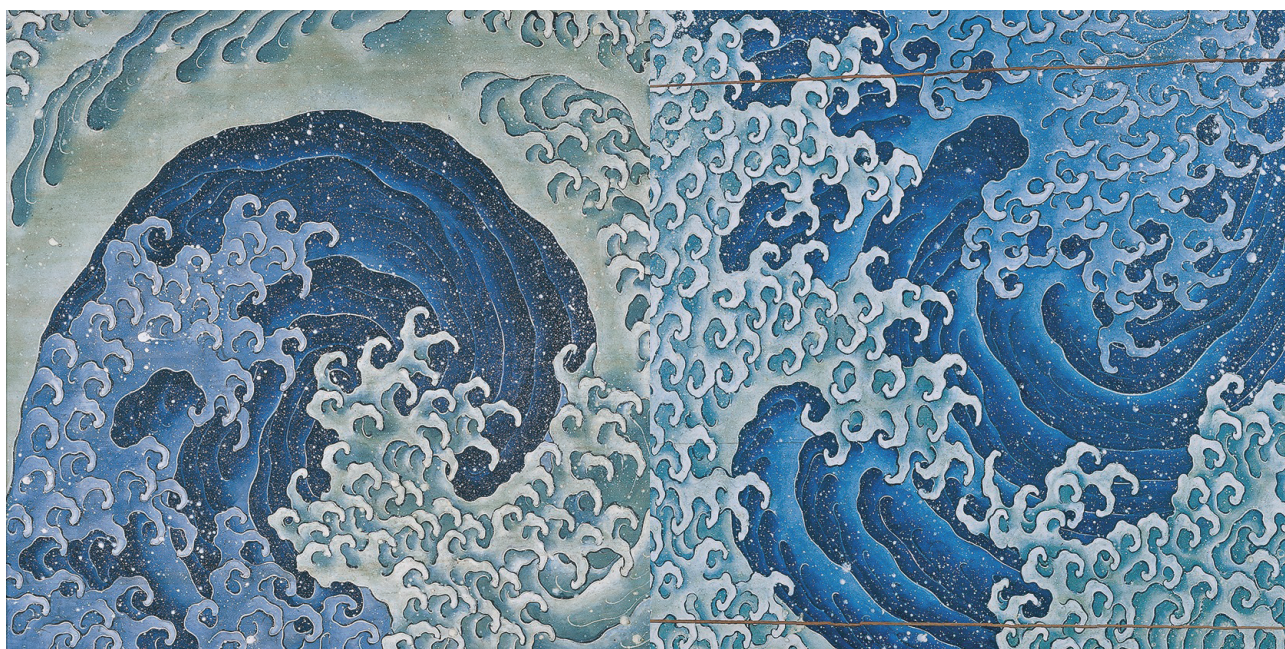
舞台は東東京、隅田川。音楽とアートによって、人々が混じり合う。

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13

すみだがわどとう

『隅田川怒涛』開催のお知らせ

NPO 法人 トッピングイーストは、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催するTokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13の一つとして、2020年の春、4月13日（月）から4月19日（日）と、夏、8月17日（月）から8月23日（日）に、隅田川をひとつの舞台に見立てた、参加型の音楽とアートのフェスティバル『隅田川怒涛』を実施いたします。



右／葛飾北斎 上町祭屋台天井絵「怒涛図」 「男浪」（部分） 1845年頃 © 一般財団法人 北斎館
左／葛飾北斎 上町祭屋台天井絵「怒涛図」 「女浪」（部分） 1845年頃 © 一般財団法人 北斎館

『隅田川怒涛』では、隅田川南北約10kmをひとつの大きな舞台にとらえ、世界的に活躍するアーティストによるさまざまな音楽、パフォーマンス、インスタレーションを各地で展開していきます。隅田川そのもの、往来する船、そして兩岸にかかる橋それら一つ一つをも舞台に見立てていきます。演奏者としてアーティストやミュージシャンとともに参加できるパフォーマンスをはじめ、楽器を演奏できなくても楽譜を読めなくても、この『隅田川怒涛』では誰もが関わり、楽しむことができます。

また、春と夏の2回に分けてフェスティバルを開催することで、地域住民やその他アーティストと関わるさまざまな人々が時間をかけてコミュニケーションを育んでいきます。さらに、一度の「参加」だけではなく、継続的な「参画」へとつながっていきます。この11月末からは、プログラムの一つ「ほくさい音楽博」に参加する子どもたちの募集も始まっています。

今回、隅田川そのものが経てきたまさに「怒涛」の歴史に敬意を表し、メインビジュアルには、葛飾北斎の「怒涛図」を使用します。これは、本プログラムが、演者と観客、地域住民と来訪者を、分け隔てることなく鮮やかなまま混ぜ合わせ、そのぶつかりで生じる飛沫が川の流れになるようなイメージを重ねています。

『隅田川怒涛』開催概要

- 実施期間 : 春 2020年4月13日(月)～4月19日(日)
: 夏 2020年8月17日(月)～8月23日(日)
実施場所 : 東京都内の隅田川周辺(河川敷や公園、橋、寺院、博物館など)
入場料 : 無料(一部有料プログラムもあり)
主催 : 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
後援(予定) : 中央区、台東区、墨田区、江東区、荒川区、足立区、公益財団法人東京都公園協会
企画・運営 : NPO法人 トッピングイースト

開催場所は隅田川の南北約10キロメートル

企画の背景

酒を造ることができるほど清く澄んでいた——。それが名前の由来の一説ともいわれている隅田川は、長きにわたり川面に東京そのものを映し出してきました。江戸初期は国境の役割を担うほか、両国の花火大会や川開きなど辺り一帯は江戸随一の盛り場に。ところが関東大震災、東京大空襲で二度の甚大な被害を受けた後は、高度経済成長期に汚染が深刻化し、人々の関心は薄れていくようになりました。その後時間をかけて整備された現在の隅田川は、いま改めて人々の憩いの場として命を吹き返しつつあります。

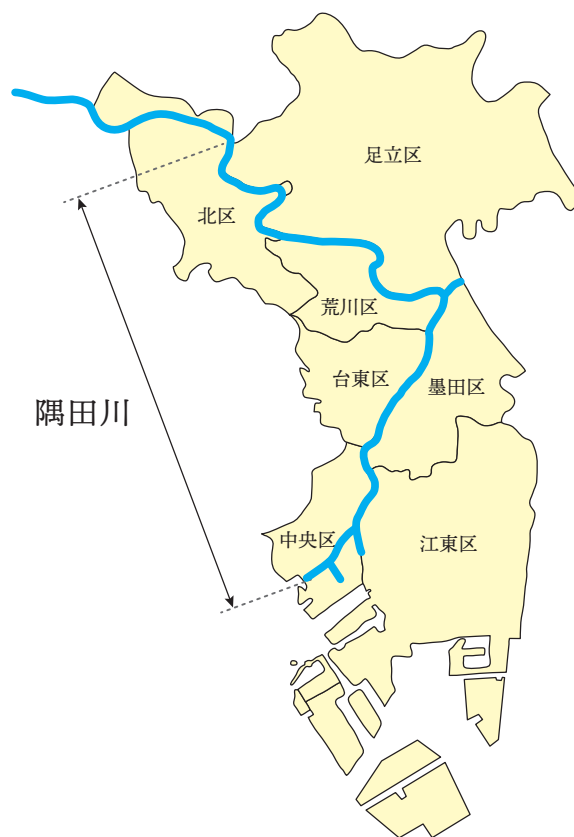
プログラム内容

隅田川の南北約10kmをひとつの舞台に見立てた、音楽とアートのフェスティバル。日本を代表するアーティストが、音楽、パフォーマンス、インスタレーションなどを「春」と「夏」の2回にわたり展開します。

約200年前の江戸期の華やきを想い、この地の永い歴史に尊敬の念を込め、芸術表現活動を通じて、人々が怒涛のように混ざり合っていく姿を描くプロジェクトです。

『隅田川怒涛』では約7の船着場と周辺施設を使い、春夏合わせて約15のプログラムを実施します。現時点で決定しているプログラムは、春プログラムとしてミュージシャン・和田永による「エレクトロニコス・ファンタスティコス! (仮)」、一般参加の子どもたちによる「ほくさい音楽博」、夏プログラムとして「水曜日のカンパネラ」のコムアイが隅田川沿いで在日外国人とともに展開する「BLOOMING EAST プロジェクト(仮)」です。

フェスティバルや各プログラムの詳細および出演者などの情報は、2019年12月中旬開設予定の『隅田川怒涛』公式WEBサイトにて順次発表していきます。



決定プログラム第一弾詳細

今後他プログラムについて、順次発表予定

春

いつでも誰でも参加可能！

和田永 + Nicos Orchest-Lab「エレクトロニコス・ファンタスティコス！」(仮)

アーティストの和田永が中心となり、使われなくなった電化製品を新たな電子楽器として蘇らせ、あらゆる人を巻き込みながらオーケストラを目指していくプロジェクト。

隅田川のほとりで産声をあげたこの取り組みは、エンジニア、プレーヤー、デザイナー、マネージャーなど、多種多様に関わるチーム(Nicos Orchest-Lab)として、東京、日立、京都、オーストリア・リンツなど各地で日々共創を続けています。

このチームが『隅田川怒涛』に向けて2020年初頭より新たに隅田川沿いで滞在製作を開始。いくつかの家電楽器を製作し、イベント時には体験できる展示コーナーを設けるほか、来場者が演奏にも参加できる仕組みを模索中。さまざまな形でイベント実施前から関わりしのあるアートプロジェクトとして、ぜひ動向をご注目ください！

実施時期 : 2020年4月18日(土)～4月19日(日)
開催場所 : ムラサキパーク東京、CITY KART
(東京都足立区千住関屋町19-1 アメーjingスクエア内)
参加アーティスト : 和田永^{わだ せい}



和田永 プロフィール

1987年生まれ。学生時代よりアーティスト/ミュージシャンとして音楽と美術の領域で活動を開始。2009年より年代物のオープンリール式テープレコーダーを演奏する音楽グループ『Open Reel Ensemble』を結成してライブ活動を展開する傍ら、ブラウン管テレビを楽器として演奏するパフォーマンス作品『Braun Tube Jazz Band』にて第13回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞。Ars ElectronicaやSónarを始め、各国でライブや展示活動を展開。2015年より役割を終えた電化製品を新たな電子楽器として蘇らせ、合奏する祭典を目指すプロジェクト『エレクトロニコス・ファンタスティコス！|ELECTRONICOS FANTASTICOS!』を2014年に始動させて取り組む。その成果により、第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

<https://eiwada.com>

<http://www.electronicosfantasticos.com>

春

響きの美しい世界中の音楽に触れる。

子どもたちのための音楽博覧会「ほくさい音楽博」

葛飾北斎に多大な影響を受けたフランスの作曲家ドビュッシーは、およそ100年前、従来の西洋音楽からの逸脱をはかり、その音楽が世界中に波及していったといいます。幼少期から世界中の音楽や楽器の響きに直に触れ、彼の地を想像すること——。子どもたちがその小さな好奇心を持ち続け、いつしか葛飾北斎のように羽ばたき、世界に影響を与える存在になってほしい！という願いのもと、墨田区両国地域で子どもたちを対象に行われる音楽プログラムが、「ほくさい音楽博」です。

江戸東京博物館と寺院・回向院にて行うインドネシアの伝統芸能・ガムラン、日本の伝統芸能・義太夫と和楽器、トリニダード・トバゴ生まれのドラム缶楽器・スティールパンの発表会を中心に、来場者の子どもたちに向けた体験会も開催するなど『隅田川怒涛』に向けて盛りだくさんのプログラムを企画しています。

そして、いよいよ『隅田川怒涛』春期発表会に向けて12月より行われる練習に参加する子どもたちの募集を開始します。屈指の凄腕プレイヤーたちが本気の稽古をつけてくれます。発表会当日は、女流義太夫の人間国宝・竹本駒之助さんとの共演も予定しており、子どもたちにとって、とても大きな経験になることは間違いありません。

義太夫・和楽器

発表会実施日 : 2020年4月18日(土)
発表会会場 : 江戸東京博物館(東京都墨田区横網1-4-1)
講師 : 竹本京之助(義太夫)、鶴澤弥々(義太夫三味線)、望月太左衛(和楽器)

ガムラン・スティールパン

発表会実施日 : 2020年4月19日(日)
発表会会場 : 回向院(東京都墨田区両国2-8-10)
講師 : イ・プトゥ・グデ・スティアワン(ガムラン)、鳥居誠(ガムラン)、安田冴(舞踊)
原田芳宏(スティールパン)



「ほくさい音楽博」に参加する子どもたちを募集しています。

3つのプログラムにて、参加する子どもたちの参加を募ります(スティールパンは後日募集開始)。

1. 義太夫

300年以上の歴史がある日本の伝統芸能「義太夫」を、三味線の節にのせて語っていきます。

募集対象 : 小学4年生から中学2年生
募集定員 : 10名
募集締め切り : 2019年12月10日(火)正午まで

2. 和楽器

笛や鼓などの日本の打楽器を演奏するプログラムです。

募集対象 : 小学4年生から中学2年生
募集定員 : 15名
募集締め切り : 2019年12月10日(火)正午まで

3. ガムラン

インドネシアの音楽、銅鑼や鍵盤打楽器を使った「ガムラン」を、舞踊とともに、本場インドネシアの講師から学びます。

募集対象 : 小学生、中学生、高校生
募集定員 : 楽器20名、舞踊10名
募集締め切り : 2019年12月18日(水)正午まで

練習日程や申し込みの詳細は、下記のWEBサイトをご覧ください。

URL : <http://www.toppingeast.com/topics/1494/>

夏

東東京に住む外国人に出会ってゆく。

コムアイ「BLOOMING EAST プロジェクト(仮)」

「東京に住む外国人は幸せに暮らしているのだろうか？」 幼少期から世界中を旅してきたコムアイ（水曜日のカンパネラ）の素朴な疑問から、この物語はスタートしました。

現在、東京 23 区東部^{※1}には 267,004 人の外国人が暮らしています^{※2}。18 人に 1 人が外国人。学校のクラスに 2 人が外国人になるという計算です。職場にもいるはず。コンビニでもよく見かけます。ですが、我々は彼ら彼女らのことを知っているのでしょうか。知ろうとしているのでしょうか。

新たな外国人労働者の受け入れなど、多文化共生社会に向けた議論が続く中、難民認定を待つエチオピア人、ジャイナ教徒の宝石商、ヒジャブを纏^{まと}ったインスタグラマーなど、さまざまな東東京に暮らす外国人の言葉にコムアイが耳を傾け、彼ら彼女とともに作っていくプロジェクトです。

※1 23 区東部：台東区・墨田区・江東区・荒川区・足立区・葛飾区・江戸川区・千代田区・中央区・文京区・豊島区・北区・板橋区
（『隅田川怒涛』事務局による定義）

※2 東京都の統計／外国人人口平成 31 年・令和元年 より

実施時期 : 2020 年 8 月 23 日(日)

先導役 : コムアイ（「水曜日のカンパネラ」）



コムアイ プロフィール

アーティスト。1992 年生まれ、神奈川育ち。ホームパーティで勧誘を受け、歌い始める。「水曜日のカンパネラ」のボーカルとして、国内だけでなく世界中のフェスに出演、ツアーを廻る。その土地や人々と呼応して創り上げるライブパフォーマンスは必見。好きな音楽は民族音楽とテクノ。好きな食べ物は南インド料理と果物味のガム。音楽活動の他にも、モデルや役者など様々なジャンルで活躍。2019 年 4 月 3 日、屋久島とのコラボレーションをもとにプロデューサーにオオルタイチを迎えて制作した新 EP「YAKUSHIMA TREASURE」をリリース。

<http://www.wed-camp.com>

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年に向けて東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。

公式 WEB サイト：<https://tokyotokyofestival.jp>

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVAL の中核を彩る事業として、東京都及び公益財団東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。国内外から応募のあった 2,436 件から選定した 13 の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13」と総称し、オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年に向けて、順次展開していきます。

公式 WEB サイト：<https://ttf-koubo.jp>

本リリース内容に関するお問合せ先

『隅田川怒涛』事務局（NPO 法人トッピングイースト）

TEL：080-9671-7507（平日 11:00-18:00）

E-mail：info@toppingeast.com



東京都



ARTS COUNCIL TOKYO